

## V. インターネット・紙媒体による情報の発信と共有

### 1. 阿蘇草原再生ホームページ

前年度事業によって立ち上げた阿蘇草原再生のプロジェクトのホームページを引き続き維持・更新しながら情報発信を行った。

#### (1) コンテンツの更新状況

本年度は、以下のコンテンツの追加・更新を行った。

草原維持管理作業支援ツアーのお知らせ・参加者募集

草原再生シールの取り組み紹介・生産農家の情報公開

、は個々のプロジェクト遂行のために必要な情報発信の手段として、当ホームページを使用したもの。

関係者インタビューの掲載（5名）

会議、イベント、実証試験等の開催案内、開催報告

阿蘇の草原に関する環境省発行の報告書のPDFによる掲載

ニュースレター、環境学習教材等印刷物の掲載

あか牛オーナー制度、パークボランティア主催の観察会、野焼き支援ボランティア募集等、地元の取り組みを紹介

掲示板の運営

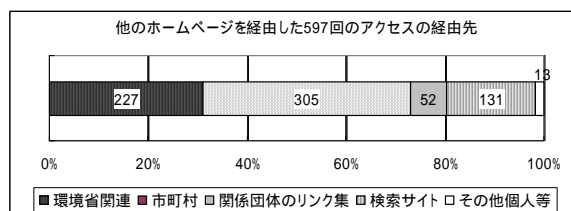
地元で開催されるイベント情報の掲載のほか、ニュースレター等を読んだ感想、「野焼きは温暖化の原因では?」「水源涵養地として考えるならば草原と森林ではどちらがより水がめの役割をするのでしょうか」などの質問が寄せられた。

#### (2) ホームページの閲覧件数増加のための取り組み

HPをより多くの人に見てもらえるよう、頻繁にコンテンツを更新したり、WEB検索で上位にランクされるよう登録キーワードの設定を変更したりするとともに、ホームページアドレスを目にしてもらえるよう、ニュースレター、草原再生シール、シンポジウムのチラシ等印刷物へのホームページアドレスの記載を行った。

#### (3) ホームページアクセス状況

カウンターを設置した平成17年1月から3月までのアクセス数は、1月が994回、2月が最多の1,223回、3月が1,146回で、平均すると1週間当たり約260回のアクセスがあった。2月はシンポジウム



が開催されたことでアクセス数が増加したものと思われる。

作業の更新にかかるアクセスはノーカウント。また、最初のアクセスから約 10 分以内に同一マシンからアクセスがあった場合には、そのアクセスをカウントしないものとした。

また、訪問ルート別に集計を行ったところ、市町村のリンク集などからのアクセスが 305 件（42%）と最も多く、次いで環境省関連のホームページからのアクセスが多く、地元関係団体のホームページを経由してのアクセスも 52 件あった。

#### （4）ホームページにおける今後の課題

ホームページに掲載した「支援ツアー参加者募集」を見た出版社が取材に来るといった反響もあり、ホームページによる情報発信の効果もみられた一方、ツアー参加者が集まらなかったという事実や月々のアクセス数が阿蘇を紹介する他のホームページと比較しても少ないという状況から、アクセス数の拡大が一番の課題といえる。アクセス数の拡大にむけては、クリックしたくなるようなバナーデザインの再考、リンクをはってもらう先を増やすことが、まずは有効な方法と考えられる。

また、長期的には、地元畜産関係者や教育関係者に必要とされるデータを、わかりやすく使いやすいかたちに加工し掲載することで、地元利用者の拡大を図る。さらに、ホームページを継続させ、より地域に根付かせていくためには、地元関係者が中心となって企画・運営していくことも求められ、そのための体制づくりが必要になるといえる。

## 2．ニュースレターの作成・配布

昨年度に引き続き、調査の進捗や地元で行われている取り組み等を紹介するニュースレターを計 4 回、各 5,000 部を発行・配布した。

主な配布先は、地元行政機関、牧野組合、地元観光・商工関係者、教育関係者、草原再生にかかわる団体、個人等で、毎回約 2,700 部（うち阿蘇市郡内に約 2,300 部）を直接配布。その他、シンポジウム等の会合や各種イベントで出席者に配布した。

## 3．チラシ「平成 15 年度牧野組合調査結果」の作成・配布

阿蘇の農畜産業の現状を牧野組合関係者をはじめ、広く一般の人にも知ってもらうため、平成 15 年度牧野組合調査の結果をグラフ等を中心にわかりやすくまとめたチラシ（A4 カラー 4 ページ）を 5,000 部作成した。ニュースレター同様、草原にかかわる機関や団体、個人に直接配布するとともに、シンポジウム等の会合やイベント等の出席者に配布した。

#### 4 . パンフレット「阿蘇草原地域自然再生推進計画」

本調査の成果である阿蘇草原地域自然再生推進計画を、阿蘇市郡内はじめ広く一般の人にも知ってもらうため、計画の内容をわかりやすく示したパンフレット（A 4 カラー 16 ページ）を作成し、5,000 部発行した。